

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	日本工業大学（学部・学科等の課程）				設置者名	学校法人 日本工業大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和４年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
基幹工学部	機械工学科	平成30年度	170人	中一種免（数学）	平成30年度	145人	23人	1人	8人
				中一種免（技術）	平成30年度			10人	
				高一種免（工業）	平成30年度			17人	
	電気電子通信工学科	平成30年度	150人	中一種免（数学）	平成30年度	132人	14人	0人	0人
				中一種免（技術）	平成30年度			7人	
				高一種免（工業）	平成30年度			13人	
	応用化学科	平成30年度	80人	高一種免（工業）	平成30年度	51人	1人	1人	1人
先進工学部	ロボティクス学科	平成30年度	100人	中一種免（技術）	平成30年度	79人	1人	1人	0人
				高一種免（工業）	平成30年度			1人	
	情報メディア工学科	平成30年度	120人	中一種免（数学）	平成30年度	148人	7人	2人	2人
				中一種免（技術）	平成30年度			4人	
				高一種免（工業）	平成30年度			6人	
	データサイエンス学科	令和4年度	120人	高一種免（情報）	令和4年度				
建築学部	建築学科	平成30年度	250人	中一種免（数学）	平成30年度	202人	23人	1人	6人
				中一種免（技術）	平成30年度			5人	
				高一種免（工業）	平成30年度			22人	
入学定員合計			990人	合計		757人	69人	91人	17人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和５年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

大学名	日本工業大学大学院（研究科・専攻等の課程）			設置者名	学校法人 日本工業大学				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和４年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
工学研究科	環境共生システム学専攻	平成25年度	15人	中専免（技術）	平成25年度	4人	0人	0人	0人
				高専免（工業）	平成25年度			0人	
	機械システム工学専攻	平成25年度	35人	中専免（技術）	平成25年度	18人	3人	1人	1人
				高専免（工業）	平成25年度			3人	
	電子情報メディア工学専攻	平成25年度	25人	中専免（技術）	平成25年度	12人	2人	0人	0人
				高専免（工業）	平成25年度			0人	
				高専免（情報）	平成25年度			2人	
	建築デザイン学専攻	平成25年度	25人	高専免（工業）	平成25年度	9人	1人	1人	0人
入学定員合計			100人	合計		43人	6人	7人	1人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和５年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和5年11月22日（水）オンライン

実地視察大学：日本工業大学

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教員養成に対する理念・構想として、「社会性や次世代の科学技術を担う豊かな教養・人間性及び社会規範を有する人材を育成する」ことが示されているが、それを明確化・具体化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び実施教育研究組織をより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○教育職員免許法施行規則等に則した科目の開設や、教職課程コアカリキュラムに対応した内容の科目が実施されていることが確認できた。
○教育研究実施組織についても、引き続き充実を図られたい。

3. 教育実習の取組状況

○全ての教育実習先に担当指導教員が巡回指導を行うなど、大学としての責務を積極的に果たしていることは確認できたが、今後、教育実習中の学生のトラブル対応やサポート体制について、大学としてより組織的な対応ができるよう検討していただきたい。
○教育実習における大学としての教育目標を明確にし、目標の到達度がよりの確に評価できるものとなるような教育実習の評価表や評価方法の工夫を期待する。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○見学した授業科目では、教職に就いた卒業生のプレゼンテーションを取り入れるなど、学生のモチベーションを高める工夫が見られた。また、教職教育センターを中心とした、学生の教職志向性を高め維持する取り組みについて評価できる。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○「学習サポーター」「学習ボランティア」等の学生の派遣等を通じ、県教育委員会との連携体制が構築されていることが確認できた。今後は、さらに連携を深め、学生が、教職へのモチベーションをより高めることができるよう、地域の教育体験活動に参加できるような工夫を検討いただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○ 施設・設備については、十分に整備されている状況が確認できた。

7. その他特記事項

○中教審答申「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」において、複数校種・複数教科の免許状の保有の促進について提言されていることから、複数免許状の所持を希望する学生への履修指導についても取り組んでいただきたい。